

## 久慈地域の森林経営計画への対応と地域林業の方向性の検討

県北広域振興局では、久慈地域の森林施業推進のため、平成23年6月30日に、地域けん引型経営体3社(森林組合、素材生産、造林事業体)による打合せを行い、森林資源、販路の状況について情報交換を行うとともに、森林経営計画の作成、地域林業の方向性に関する検討を行いましたので報告します。

### 1 情報交換の内容

振興局から検討会へ提供した情報を次に示します。

- ① 民有林森林面積の樹種別割合
- ② アカマツ人工、天然林面積の齢級構成
- ③ 伐採届を背景とした伐採面積状況(樹種別、皆伐・間伐別、齢級別)
- ④ 樹種別の素材生産量の推移(H19-20)
- ⑤ アカマツABC材別の川上、川中、川下の状況と課題
- ⑥ 現状の伐採、造林ペースで森林施業が行われた際の10、50年後の樹種別森林面積の齢級構成(試算)

### 2 地域の共通認識

提供した資料をもとに、各経営体から様々な意見が出され、いくつかの共通認識が得られました。次に示します。

- ① 森林組合が施業計画の中心
- ② 資源・販路の実態に即した計画の作成が必要
- ③ 経費も含め、森林所有者への説明が出来る計画が必要
- ④ 素材の販路が確保されなければ、森林

施業は進まない

- ⑤ 震災の影響があるので、補助事業の活用は重要

### 3 久慈地域の森林施業の方向性

検討の結果、「アカマツ天然林施業は今後も継続していく一方で、アカマツ人工林は皆伐後、補助事業を導入しながら、計画的に樹種転換を進め、スギ、カラマツ資源を増加させていく。」となりました。

### 5 今後の展開

最終的な方向性を得るためには、一層の情報収集、地域での合意形成が必要となり、今後、地域林業関係者も含めた形での検討を行うことを予定しております。その際には、新たな制度に関する説明、有識者の助言も付加しながら、市町村森林整備計画へも反映させていく予定です。

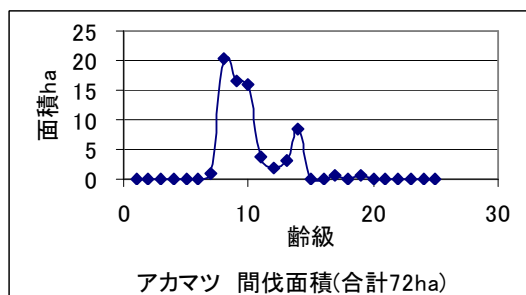
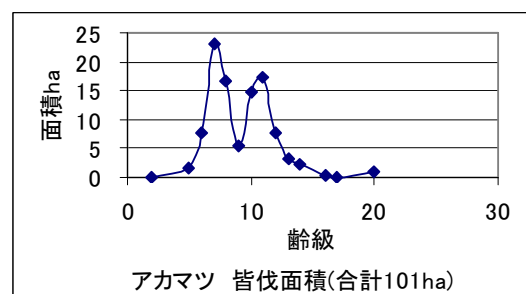


図 平成22年度の伐採状況(伐採届がベース)